

式 辞

ふるさとの山々には美しい花たちが春の訪れを喜び、咲き誇っています。今日のよき日に、土居中学校に入学した125名の新入生のみなさん、おめでとう。保護者の皆様、お子様の成長を今、心から喜んでおられることと思います。お子様のご入学、誠におめでとうございませう。

式に際しまして、市教育委員会石村様 市議会より真鍋さまをはじめ、本校教育をしっかりと支えていただいております多くの皆様のご臨席をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

さて新入生の皆さん。美しい姿勢でこちらをしっかりと見つめ、いい顔をしていますね。大変立派な姿に感動しています。

さあ、中学校ではどんなことが待っているでしょう。わくわく、ドキドキしているでしょうね。その気持ちを大事にしてくださいね。



さて、土居中学校では、「土居中魂」を大切に育ててほしいと思っています。

そもそも魂とはどんなものでしょう。魂を込めて何かを行う時の場面を想像してみますね。魂を込めて投げる、打つ。魂を込めて 書く。魂を込めて 描く、歌う、演奏する。みなさんも聞いたことはあるでしょう。

最近のことで言えば、野球の世界大会 WBC にて、大谷翔平選手が決勝戦の9回に投げた一球一球には、おそらく大谷選手の魂がこもっていた。実に感動したのを昨日のように思い出します。なぜ、魂を込めることができたのか。それは、毎日の練習や、毎日の体調管理、毎日の食事、毎日の研究。学び。毎日の仲間とのつながりを、丁寧

に丁寧に、こだわって積み上げてきたからこそ、魂が込められた球になったと思うのです。ただ、単に、気持ちを込めようと思っても、日ごろの努力やチャレンジがなければ、そう簡単に魂を込めるところまではいかないとも思います。

中学生になったみなさんは、一人ひとりこの自分が魂を込めるものを見つけて毎日丁寧に、自分で決めてチャレンジしてほしいと思います。チャレンジしている間は失敗もあると思います。成功することばかりではないと思います。でもそこにチャレンジしていくことこそ大事です。明日からさっそく始めてほしいと願っています。

では、「土居中魂」とは何なのでしょう。これは、この学校に関わる全ての人で創り上げるものです。この胸の真ん中にしっかりと一人一人がみつけて、持っておくものです。

ヒントはこの、今の空気にあります。

先輩たちは、どんな空気を今、つくってくれていますか。背中にどんなものを感じますか。先生たちと、先輩のみなさん、そしてもちろん保護者や地域の人たちが一緒につくっているこの空気。しんと静まりかえったこの感じを「凜」とした空気ともいいます。だまっているけど、おめでとうの気持ちのこもった実に温かな、いや熱い空気かもしれません。ここにも、土居中魂は生きています。無言であっても、人を大切にすることはできるのです。

違いを認め、決して差別やいじめを許さず、人の本気の姿に拍手を送り合う。これは、このふるさとが大事にしてきた魂であるとも思います。その中では、人は安心して学ぶことができます。先ほども言いました。チャレンジして失敗することだってできます。笑われないんだから。SNS 上で馬鹿にされることだってないんだから。部活動だって、互いのチャレンジを認め合うのですから。きっとそんな仲間がいる部活動はすっごく強くなります。

新入生のみなさん

ぜひ、そんな「土居中魂」を感じ、見つけ、自分の中にもしっかりと育ててほしいと思います。この土居中学校で先輩方や、先生たちと、そして温かく見守ってくれる地域の方とともに学びを続けて、さらに磨き上げられた「土居中魂」に満ちた、学校。

土居中学校をみんなで創り上げていきましょう。

令和五年四月十一日 四国中央市立土居中学校 校長 合田 泰之